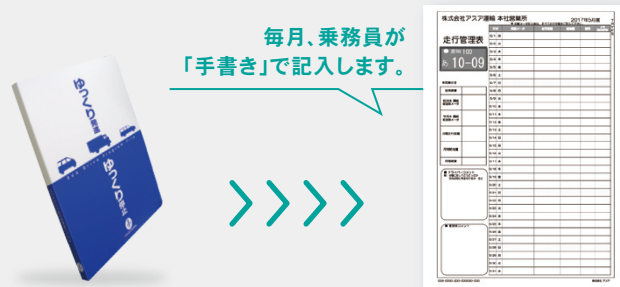


トライエスプログラム® 一月1サイクルの継続

Step 01 実践できる環境づくり(実践結果を継続して把握)

▶コンサルティングツール…走行管理表など



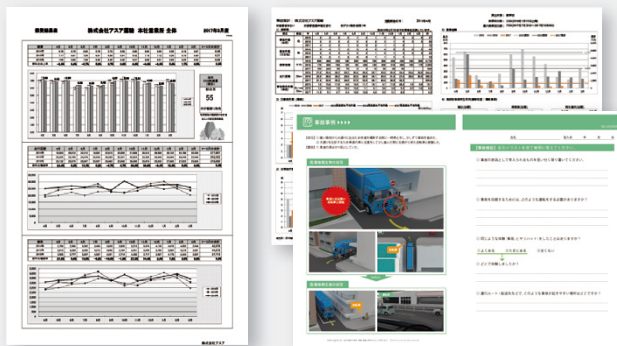
手書き アナログを実践することで、楽しみながら気付きを得る。

環境構築 運用ルールを策定し、管理者とドライバーが一緒に取り組む。

意思疎通 記入状況やコメント欄を活用し、文字のコミュニケーションをはかる。

**紙一枚を正確に運用し、
PDCAサイクルの基盤を構築する**

Step 02 実践結果の共有(データの見える化)



正確 データを正確に構築し集計。意識に繋がる取り組みの実践状況を把握。

継続 毎月、同じタイミングでデータを更新。現場に継続して、最新の情報を提供。

課題 外部視点から課題がどこにあるのかを分析。実践できる改善方法を検討。

**作成が目的ではなく、
現場が『実践』できるツールを提供**

Step 03 コミュニケーション(明るく前向きに取り組める)

ドライバーミーティング



構築した実践データをもとに、意見をヒアリングします。

管理者ミーティング



現状把握、課題の共有、改善状況などを管理者同士で共有します。

安全活動 法令で必要とされる教育も継続的に実施。議事録等の資料も保管し、安全活動を適正化する。

会社独自 ミーティングのテーマは自社の材料で。自身に関わるため、興味を持ちやすい。

対話 情報の伝達でなく、参加者との対話を通じて、本音や意見を引き出す。

**現場の意見を聴き、
現場が納得できる環境を構築する**



トライエスプログラム®

従業員全員が意欲的に【トライ】できる仕組みづくりと
【イエス】と賛同できる組織づくりを目的としたプログラムです。



現場が継続できる

明るく前向きに取り組める 実践サイクル

データサポート



客観性のあるデータを「見える化」

データサポート例

- 事故の集計・分析
- 走行管理表の記入状況
- ドライバーの意識の見える化
- デジタコ、ドラレコ
- 個別アンケート調査



親身な探索型パートナーになる

「伝える」から「伝わる」対話サイクル

ミーティングサポート



トライエスプログラムの2大手法

小集団型と個別型のミーティングを戦略的に使い分け、「共感」と「本音」にアプローチ。

「小集団型ミーティング」

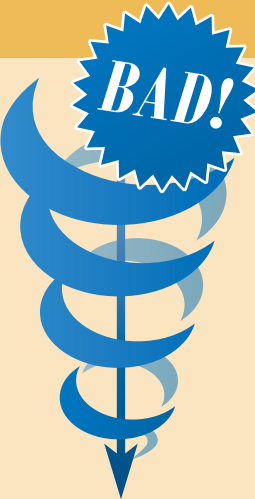
24時間対応	8時間滞在	様々な業務に対応可能な、参加しやすい時間を設定し、管理者・ドライバーへの負担を最小限に抑える
少人数		全員が積極的に発言し情報を共有する
短時間1回	30分	負担を軽減することで継続できる環境を構築する

「個別型ミーティング」

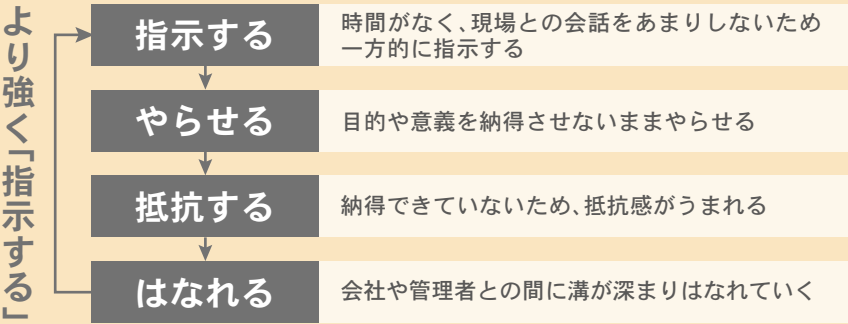
24時間対応	16時間2日間実施	様々な業務に対応可能な、参加しやすい時間を設定し、管理者・ドライバーへの負担を最小限に抑える
個別面談1on1		1対1でコミュニケーションの質を深める
短時間1回	15分	テーマや対象者に合わせて時間の調節が可能

継続できるトライ&イエスのサイクルアップ

仕組みをまわし続ける力を磨く



知らず知らずに陥っている負の連鎖



明るく楽しく共に成長しあう環境

